

研究区分	学部研究推進
------	--------

研 究 テーマ	第3期中期計画・年度計画に基づく研究科の国際的教育研究環境整備				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤田 敬人
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	石井 由香
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	吉田 真樹
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森 直香
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	佐藤 真千子
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	小窪 千早
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	澤田 敬人

講演題目
海外交流協定校の教員を活用する研究指導支援の取組
研究の目的、成果及び今後の展望 本研究課題では、令和6年度を終期とする第3期中期計画における国際関係学研究科の専門基礎教育・専門教育として、次のアとイの取組を進めた。 ア 2024年度までに、国際関係学専攻、比較文化専攻の両専攻名とカリキュラム体系との整合性を再点検し、整備を図る。 イ グローバル社会で活躍できる人材育成のための国際交流環境を充実させる。 本研究課題の代表者と分担者はイを中心に国際的教育研究環境の整備に特化した取組を進めた。これらのうち大学院生向けの研究の手引きや研究倫理の情報提供において、国際的教育研究環境の持続的向上を期して、3つの国際関係学研究科附置センターの活動内容を国際関係学研究科の教育に活かす計画を立てた。国際関係学研究科の3つの附置センターから質保証委員会委員長がヒアリングを行い、その結果に基づき、令和6年10月1日に開催した国際関係学専攻と比較文化専攻の修士論文中間報告会に続く専攻ミーティングにおいて、研究倫理などの情報提供の他に3つのセンターの活動内容を学生に伝達する機会を設けた。 また、国際的教育研究環境整備の一環として、海外交流協定校の教員を活用する研究指導支援の取組を実施し、高い効果があることを明らかにした。令和6年度の海外交流協定校の教員を活用する研究指導支援の取組では、大学院生の研究指導を行っている教員および国際交流委員会の交流協定校担当専門委員のコーディネートにより、本学と交流協定を結ぶ海外の大学に所属する教員が、国際関係学研究科の大学院生に対する研究指導の支援を行った。 まず、5月研究科委員会でボアジチ大学の専任教員5名を協力者として承認した。9月研究科委員会ではバリエードリード大学の専任教員1名を協力者として承認した。学生が応募するための要領を研究支援協力者の履歴業績書と共に大学のポータルサイトに置き、令和6年10月より受付を始めた。修士課程2年生1名の応募があり、計画通りに交流協定校の研究指導協力者による協力を要請した。研究指導協力の実施後に学生からアンケートへの回答を求め、回答受理後に取組の検証を行った。学生から好評で、他の大学院生に利用を勧めたいとのことであった。